

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 5月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	1090600055
法人名	社会福祉法人なごみの社
事業所名	みんなんち園原
所在地	沼田市利根町園原871 (電話) 0278-56-9210

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年4月16日

【情報提供票より】(平成22年 3月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成21年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円(30日計)		その他の経費(月額)	寝具リース代47円/日・水道光熱費350円/日	
敷金	有 (100,000円)				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円	

(4) 利用者の概要(3月30日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.1歳	最低	82歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼田脳神経外科循環器科病院 ・ 沼田クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して1年余りの事業所である。法人病院があり入居者の健康状態や状況変化については常に相談できる環境にある。また、併設の小規模特別養護老人ホームがあり緊急時対応及び災害時対応においては常に協力できる環境にある。開設当初からの馴染みの職員によるケアにより、入居者の気持ちに寄り添ったケアに努めている。また、家族との信頼関係を大切に考え、家族の言葉に耳を傾け、報告をするように努めている。今後、地域とのつきあいを続け、グループホームの周知、更に機能を活かし地域貢献できる取り組みを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価のコピーを職員に配布し、できる範囲で作成してもらい、管理者が取り纏めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、初回に事業所の見学をしてもらう等委員への理解を仰いでいる。会議内容は、現況報告が主である。今後、推進会議参加者を通じて地域の方々への理解及び意見等を頂けるような会議開催を目指している</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの苦情受付窓口を設置し、重要事項説明書に記載している。またホーム以外の受付窓口も記載している。管理者は、職員に愚痴であってもどんな些細なことでも、家族等から聞いた内容は口頭で報告するように伝えている。報告された内容について必要であれば検討し、関係者に口頭で説明及び報告することとしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出かけた際に、行き交う近隣の方に挨拶している。自治会には、隣接した小規模特別養護老人ホームと共に加入している。ホームの地域の方々への周知及び理解を図るような取り組みを模索している。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設にあたり管理者が作成し、個人の尊厳・健康管理、地域密着型サービスとして家庭的な雰囲気・地域との交流を掲げている。今後、職員の意見等を取り入れて事業所のすすむべき方向性・理念を検討することも考えている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、居間に掲示されている。開設後3回の全体会議を開催し、理念について等管理者が職員に説明している。申し送りでは日頃のケアが理念に添ったものであるのか意識づけと確認を行っている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけた際に、行き交う近隣の方に挨拶している。自治会には、隣接した小規模特別養護老人ホームと共に加入している。ホームの地域の方々への周知及び理解を図るような取り組みを模索している。	<input type="checkbox"/>	地域の人々と散歩以外での交流する機会をもち、事業所を知ってもらい、更には地域の介護拠点となるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員にコピーを配布してわかる範囲で記載してもらい、管理者が取り纏めている。今回が初めての外部評価である。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隣接した小規模特別養護老人ホームと合同で2ヶ月に1回開催されている。初回は、事業所の見学をもらう等委員への理解を仰いでいる。会議内容は、現況報告が主である。今後、会議メンバーを通じて地域の方々への理解及び意見等を頂けるような会議開催を目指している。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告等で行った際に、情報収集している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、入居者の暮らしぶり等を報告している。また、法人の「便り」で行事開催状況等を知らせている。管理者は、家族との信頼関係を大切に考え、月1回の請求書送付時には、個々に暮らしぶりや健康状態等を文書で同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情受付窓口を設置し、重要事項説明書に記載している。またホーム以外の受付窓口も記載している。管理者は、職員に愚痴であってもどんな些細なことでも、家族等から聞いた内容は口頭で報告するように伝えている。報告された内容について必要であれば検討し、関係者に口頭で説明及び報告することとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の関わりを大切に考え、異動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員には、法人内施設やグループホームでの研修を行っている。また、職員1名に認知症基礎研修を受講させている。受講後の報告については、報告形式を検討している。事業所内では、年3回の全体会議において勉強会を開催したり、研修資料のコピーを職員に配布して資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の病院から研修者を受け入れ、違う視点からの考えを取り入れる機会としている。交流や相互訪問等における重要性を理解し、法人以外の交流については、地域密着型サービス連絡協議会の加入予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は家族が見えたり、管理者や職員が会いに行ったりしてから、入居できるようにしている。また、併設のデイサービスや法人内事業所からの利用については、関係する職員から情報を収集してのサービス利用としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑で野菜を育てながら入居者から知っていることをいろいろ教えて頂いたりしている。また、職員が勤務に入ると「おかえり」と言って向かえてくれたり、入居者の言葉によって支えられていると感じ仕事に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話のなかで意向の把握に努めている。または、職員からの投げかけにより、入居者の意向を確認している。わからない場合には、入居者の立場にたって検討し、対応したり言葉をかけて本人の意向を把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員からの意見を聞きながら、介護計画を作成している。介護計画をもとに職員全員でケアができるよう介護記録を記載するように心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月2回のカンファレンスで、できるだけケアマネージャーに参加してもらい、全入居者について職員で話し合っている。介護計画の見直しは6ヶ月に1回であるが、状態に変化があれば現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望があれば、家族と相談して外出及び外泊ができるように支援している。毛染めを希望する方には、様子を見ながら職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医の受診が可能であるが、了解を得て協力医がかかりつけ医となっている。協力医による月2回の往診がある。協力医であるため、状況について詳細に聞いたり、報告することが可能であり、早い対応・処置を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族及びかかりつけ医と相談し、対応マニュアルを作成するなど具体的な対応について職員が共有できるようにしている。また、隣接の小規模特別養護老人ホームの看護師と連携をとり、対応するようにしている。ホームの方針は、文書化されていない。	○	今後、入居者家族が安心できるよう、ホームとしての方針を文書化し、職員で方針を共有できるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、事務室の書棚に保管されている。入居者への対応や言葉遣いは、親しみにより土地ならではの言葉遣いによりきつくならないよう、また理念にある尊厳を大切に行うよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、個々の体調により体操などではでき方にしてもらっている。また、食事はその人のペースでできるようせかさないように配慮している。またそれぞれが、居室で過ごしたり、居間で過ごすなど思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のテーブル拭き等をして頂いたりしている。また、食事中は入居者が聞き馴染んだ音楽をかけ、職員が声かけをしたりして楽しめるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴している。希望があれば、希望に添うように支援している。入浴を嫌がる場合には、声かけを工夫したりして入浴できるように支援している。時には、併設のデイサービスの風呂を利用して温泉気分を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴を活かして、ホームでの草むしりを仕事として行って頂いたり、洗濯物をたたんだりしてもらっている。できるだけその人のできることはして頂き、感謝の言葉をかけるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のよい時には、近隣を散歩したりしている。また、中庭にベンチを設置し自由に外に出られるようにしている。時には買い物に行ったり、花見に出かけたり等の外出の機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はデイサービスと共同であるため死角にあり、外からは入れるが内側からは暗証番号が必要である。外に出たい時には職員がついて行ったり、どうしても職員が対応できない時には少し待ってもらい対応しており、抑制することは一切しないように努めている。	○	鍵をかけることが常態化しないよう、職員で話し合いをして頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	11月に、消防署の指導のもと、昼間想定で避難訓練を実施している。次回は、火災等発生時の対応を、隣接の小規模特別養護老人ホームと合同での実施むけて検討している。	○	入居者の安全な避難のために、近隣の方の協力が得られるよう働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、体温・脈拍等とともに記載され、月1回の体重測定を行っている。献立は栄養士が作成し、入居者の好みを取り入れて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭からの明かりが入り、居間兼食堂は明るい。手作りのカレンダーが飾られたり、黒板には天気やホームや地域の出来事が記載されている。玄関前の花壇には、できるだけ入居者が知っている季節の花を植え季節感を味わってもらえるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベット・タンスが備え付けられている。それ以外に洋服ケース等が持ち込まれたり、位牌や写真等が置かれている。		